

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第3回運営委員会 開催日：5月22日。出席者：堀川委員長，ほか10名。

60周年記念号の編集にあたり，編集委員会の基本素案として，編集日程，編集基本方針などを検討した。

第3回和文会誌分科会 開催日：5月11日。出席者：田中主査，ほか20名。

1. 21件の論文審査報告があつた。
2. アンケートについて
アンケート小委員会を設け，検討してゆくことになつた。
3. 技術資料依頼について
7件の推せんがあり，依頼することになつた。
4. 60周年記念号について
編集日程，基本方針を運営委員会に諮ることになつた。

第3回欧文会誌分科会 開催日：5月21日。出席者：橋口主査，ほか9名。

1. 6件の論文について審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」59年6号より4件の論文について投稿を勧誘することが決められた。

共同研究会

鋼板部会

第35回厚板分科会 開催日：5月24，25日。出席者：黒津主査，ほか77名。

今回の議題は

- 1) 工場操業状況の検討
 - 2) 厚板工場を中心とする要員配置
 - 3) 自動化の現状と将来計画に関するアンケート
- の3題であつた。2)については前回分科会の「労働生産性」に引き続いて，アンケートを行ない集約したものである。3)については2)に関連するものとして今回取り上げたものである。
- 2)については住金・和歌山，3)については新日鉄・八幡が取りまとめを行ない，集約結果を事前に各事業所に配布した。

これらの報告についての事前質問を幹事の下で集約し可能なかぎり事前に回答書を用意して，当日の討論の密度を高めて運営するシステムを取つている。

取りまとめ資料は後日，各事業所で役立つ資料となり討論も非常に深められ，フランクな討議が可能となつた。

条鋼部会

第34回中小形分科会 開催日：5月17，18日。出席者：水内主査，ほか115名。

今回のテーマ研究は

- (1) ロール管理について
- (2) 製作指令，実績統計などの事務処理合理化の2題を取り上げ，普通鋼グループ，特殊鋼グループの2グループに分かれて討議を進めた。

ロール管理については全体として，高硬度化，ロール冷却強化により寿命延長を計ると共に，カリパー運用の合理化による在庫数減少，管理体制の合理化によるトラブル防止などが報告された。

事務処理合理化については，ほとんどの事業所が受注→製作指令のコンピュータ化を行なつているものの，実績集計については，機械化は遅れ，機械化されている所でも精整完了まで，後工程（進捗管理が最も必要とされている）の機械化は随伴カード，処理カードが数カ所で採用されているのみであつた。

しかし，端末機導入を計画している所もあり，今後機械化がすすむものと思われる。

機械化による省力化は全体としては望めず，確実な情報の迅速な収集，処理に意義があることが確認された。

鋼管部会

第20回部会 開催日：5月17，18日。出席者：三瀬部会長，ほか97名(17日)，93名(18日)

1. 共通議題 発表・討議
 - (1) 「管の曲げ加工」についてのアンケートの各社回答のまとめの報告および討議
 - (2) 「工場内の搬送工程の諸設備および要員」についてのアンケートの各社回答のまとめの報告および討議
2. 各分科会報告
 - (1) 継目無鋼管分科会関係
 - (a) 第12回継目無鋼管分科会報告
 - (b) 熱間押出共同実験「変形抵抗実験結果のまとめ」報告
 - (c) 「マンネスマン・ピアサーにおける高速穿孔についてのまとめ」報告
 - (2) 溶接鋼管分科会関係
 - (a) 第12回溶接鋼管分科会報告
 - (b) S.A.W. 関係「非破壊検査設備，水圧試験についてのまとめ」報告
3. 自由議題
 - (1) 「ピルガー・ミルについて」
 - (2) 「電線管メッキについて」
4. 工場見学
 - (1) 日本鋼管 京浜製鉄所（大径溶接管工場，中径継目鋼管工場，小径継目無鋼管工場，熱押工場）
 - (2) 東芝鋼管 川崎工場（小径電縫鋼管工場）

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第24回SCI分科会 開催日：5月16日。出席者：川

村主査, ほか 8 名.

1. S 定量方法 (Nydahl 法)

共同実験の結果から, 再改定案に対してつぎの諸点について見解を述べることにした.

- ①重量法の定量下限と添加法について
- ②アルミカラムのチェックについて
- ③クロムの揮散操作について
- ④BaSO₄ 沈殿条件について
- ⑤重量測定における風袋のとり方

2. 燃焼法による共同実験案の確認

欧州から輸入依頼中の燃焼管とカートリッジが入荷したので, 共同実験案を審議し承認された. なお各所は手持ち試料で練習実験を行ない問題点を持ち寄ることにした.

第 1 回 SC7 分科会 開催日: 5 月 9 日. 出席者: 西主査, ほか 11 名.

1. 到着文書の確認

R642 焼入性試験, R643 オーステナイト結晶粒度試験, IS 浸炭硬化層深さ試験および原案として提示されている炎・高周波焼入硬化層深さ試験, 非金属介在物試験 (マクロ法), 脱炭層深さ試験, ミクロ組織による非金属介在物試験, 粒界腐食試験 (ヒューイ法), 硫酸・硫酸銅試験について確認した.

2. 分科会構成

SC7 の審議対象となる試験方法は多岐にわたっているため鋼質判定試験方法分科会のメンバーを追加することにした.

3. 今後の対策

TC17 に上提されている脱炭層, 炎・高周波焼入硬化層試験および粒界腐食試験から順次検討を行なうことにした.

第 23 回 SC12 分科会 開催日: 4 月 25 日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 7 名.

N143 (構造用熱延鋼板非細粒鋼), N144 (構造用熱延鋼板細粒鋼), N155 (構造用冷延鋼板非細粒鋼), N156 (構造用冷延鋼板細粒鋼), N147 (構造用亜鉛鉄板), N148 (一般用絞り用ターンシート) について検討を行ない, 問題点を抽出した.

第 2 回 SC15 分科会 開催日: 5 月 16 日. 出席者: 青木主査, ほか 13 名.

バリー会議対策

a. 幹線レールの定義をスピードで区分することにし 120 km/hr 以下 (対象 50 kg/m 以上のレール) 200 km/hr 以上 (60 kg/m 以上のレール) に区分することで提案することになった. これらに対応する規格は JIS および JRS となるので, 英訳版を送付することにした.

派遣会社は新日鉄 (主査会社) および日本鋼管としたが, 国鉄からも出席願うことを申し合わせた.

第 10 回鋼質判定試験方法分科会 開催日: 5 月 9 日.

出席者: 西主査, ほか 11 名.

1. オーステナイト結晶粒度試験方法の検討

改正素案について検討した. とくに標準図については ISO は ASTM を採用していること, ステンレス鋼業界では ASTM で取引していること, 粒の形状が ISO (ASTM) は JIS より現物に近い状態にあるなどの理由から ASTM を採用することにした. なお現在 100 倍の標準図しかないので 50 倍と 200 倍のものも作製することにした.

フェライト結晶粒度も上記に準ずることにした.

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

第 20 回委員会 開催日: 4 月 24 日. 出席者: 雑賀委員長代理, ほか 14 名.

1. 研究期間延長について

専用熱疲労試験機の製作が遅れたため, 本年 6 月 30 日まで延長する件については, 通産省より承認が得られたことが報告された.

2. 各社研究中間報告

石播, 川崎重工, 三菱重工, 日立金属の各社から, それぞれ担当材料についての研究結果が報告された.

3. 新設熱疲労試験機の運転状況について

三菱金属, 神戸製鋼, 大同製鋼に設置した試験機は, 温度分布不良, 油回収ポンプなどに問題があり, いまだ本格的な試験は始められていない. これらの問題点について協会が集約し, 製作者である島津製作所に対して解決要求することとなった.

シソーラス作成拡大準備委員会

開催日: 4 月 24 日. 出席者: 染野委員長, ほか 19 名.

金属関係学協会と日本科学技術情報センターの協力のもとに金属関係シソーラスを作成することが 2 月に確認され, 今回は今後の進め方の検討およびシソーラス自体に関する理解を深める目的で開催された.

1. 今後の進め方

委員会内に幹事会を設け, 新日鉄・山村氏, 川崎・満岡氏, JICST・三橋氏が幹事に推薦された. 次回 (5/30) までに実行計画案を幹事会から提出することとした.

2. シソーラス作成の方法についての説明

JICST 安部氏よりシソーラス作成に関する説明, 幾種かの方法の特色についての説明が行なわれた.

3. 技術用語の統一について

各学協会委員より, 技術用語の統一をこの際考えたいとの意見があり, この問題について, 今後検討を進めることとした.